



誌上写真展

気仙沼に恩返しがしたい～震災という経験を経て～

東日本大震災【被災地】



津波は、人々の財産も街並みも全てを一瞬にして奪っていった

東日本大震災の被災地は2度目の冬を迎えている。

人生を変えた2011年3月11日。被災地に衝撃のツメ跡は残っている。

人の心には消えることのない悲しみが沈んでいる。

被災地、宮城県気仙沼出身の中央大学法学部3年・白倉隆之介さんは

復旧を目指し、ボランティアとして働きながら写真を撮影した。

悲しみを過去のものにするために、災いを福とするために、誌上写真展を開いた。

中央大学法学部3年 白倉 隆之介さん

巨震、激流、そして、気仙沼湾内での大火災。赤白く染まった空から深々と雪が降り注ぎ、ラジオから聞こえてくる「気仙沼の沿岸地域はほぼ壊滅状態」というアナウンスを耳にしたとき、人生で初めて「死」という言葉が頭の中をよぎった。

「これ以上でかい津波が来たら…」そんなことを何度も考えながら、車の中で過ごした2011年3月11日・東日本大震災の夜のことを、私は生涯忘れることができないだろう。

震災の翌日、私は沿岸部の方向を目指して歩いた。大好きだった気仙沼

の街は、もはやその原形をとどめておらず、歩いているうちに、自分が今、どこにいるのかが分からなくなった。数日後には、実家の近くを流れる大川から遺体が上がり、近くの小学校は遺体安置所になった。自分が、生と死の「狭間」で生かされていることを感じ、身ぶるいがした。

気仙沼で育った

気仙沼市で生まれ育ち、くしくも震災の日に帰郷していた私は、震災によって、凶らずも20年間積み上げて



自衛隊の方々を立てられているだけで、とても心強かった。はきはきとした挨拶も印象深い

きた人生観を根本から覆された。これまでの私は、どこか打算的なところがあり、いつも何かに見返りを求めていた。しかし、圧倒的な自然の脅威を前にして、自分の人間としての小ささ、無力さを思い知り、以来、少しずつではあるが心境に変化が表れるようになった。

2011年11月、ボランティアの「ボ」の字も知らなかった人間が、寝袋を持って故郷に赴いた。仮設住宅の集会所では、お年寄りの被災体験の話に涙し、子どもたちの無邪気さに心を揺さぶられた。今日という日を懸命に生き切ろうとする故郷の人々の「強さ」から、私



津波で流され、つぶされてしまった車。今回の震災では、多くの人が車で避難を図り、犠牲になってしまった



気仙沼大川沿いの桜並木の下。足の踏み場がなく、至る所に「生活」を感じる物が落ちていた



雪の積もった翌日の朝。スーパーには多くの人が整然と列をなしており、東北の人々の忍耐力の強さを感じた



防災センター内の様子。避難者名簿の他に、死亡が確認された方の名簿もあり、これより近くではシャッターを切れなかった



活動の拠点である、面瀬仮設集会所の外観の様子



2月の活動時の様子。気仙沼には珍しく20cm近くの雪がつもったので、あわてて雪かきをした



6月の活動時の様子。7月の七夕行事で使う短冊を作成中



住民の皆さん、看護師さん、ボランティアの仲間たちとの一枚

自身が逆に勇気をもらい、気がついたら何度も足を運ぶようになっていた。

ボランティアをしていることを友人に話すと、よく「仮設住宅でボランティアするなんてすごいね」と言われることがある。しかし、私は、何らすごいことをしているわけでもなく、ただ、住民の方々に寄り添ってお話をお聞きしているだけだ。私を支えるのは、崇高な理念ではなく、「何でも良いから恩返しをしたい」、その思いだけだ。でも、心を開いてお話をしてくださる住民の方々の信頼を裏切らないよう、責任感は常にもって活動するようにしている。

中大生も来てくれた

震災以降、中大でも多くの学生が被災地へ足を運ぶようになり、被災自治体の知名度は一気に向上した。地元の人間の立場からすると、遠くから足を運んでくださることは本当にありがたい。しかし、わがままを承知で言うと、できることならば、こんなにボロボロになった気仙沼ではなく、青い海と大きな漁港でにぎわう気仙沼を見てほしかった…。だからこそ、私は、もう一度被災地に、気仙沼に足を運んでもらうべく、何としても復興を成し遂げたいと思って

いる。そのためには、震災を経験した一人として、決して震災を過去の出来事にさせぬよう、メッセージを発し続けていくと同時に、私自身が復興の一助を担えるような人間に成長していかなければならない。

まもなく、被災地では震災から2度目の正月を迎える。多くの方が、仮設住宅の次の住まいのことを考え始めると心穏やかな年越しではないだろう。だが、そんな中であっても、ふと気づいたときに、住民の皆さんの「癒し」になるような存在であり続けられるよう、今年の冬も活動を頑張りたい。